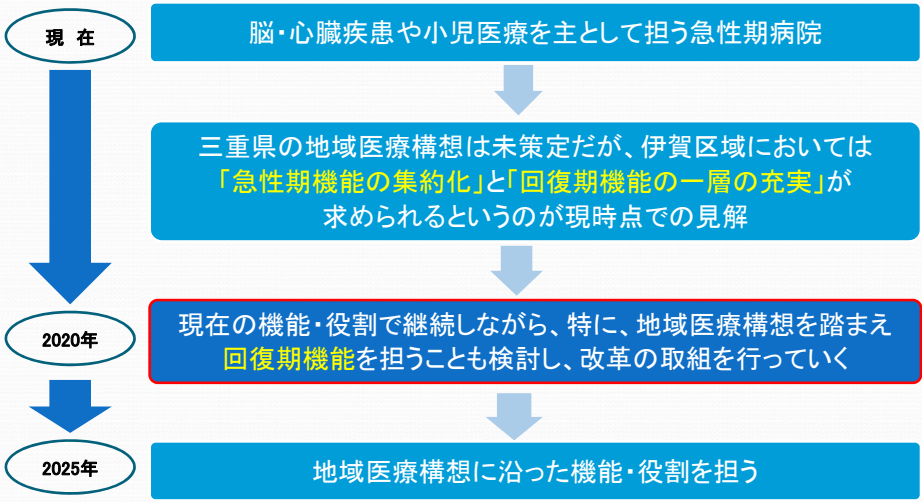


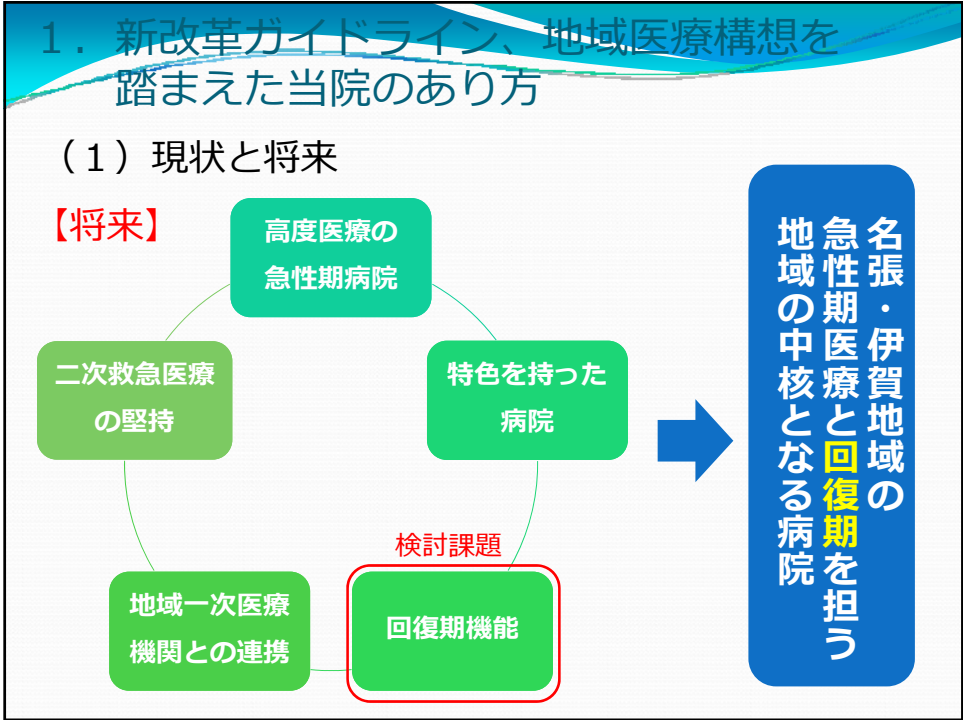
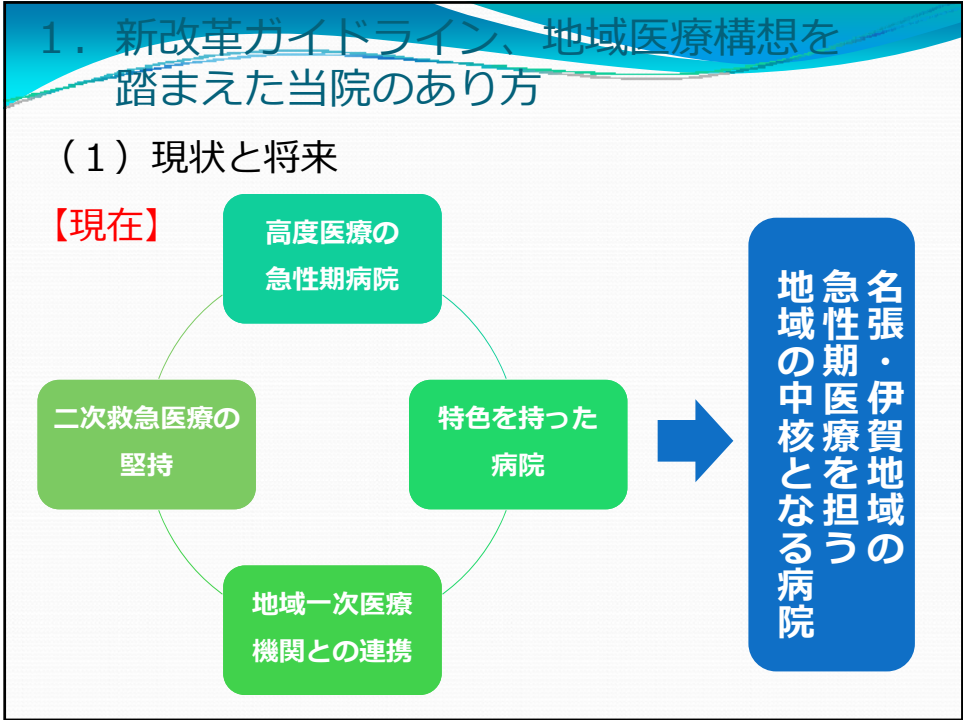
当院のあり方と経営改革の方向性

- 1. 新改革ガイドライン、地域医療構想を踏まえた当院のあり方
 - (1) 現状と将来
 - (2) 改革の方向性
- 2. 新改革プランの検討
 - (1) 地域医療構想を踏まえた当院のあり方
 - (2) 経営の効率化

1. 新改革ガイドライン、地域医療構想を踏まえた当院のあり方

(1) 現状と将来





1. 新改革ガイドライン、地域医療構想を踏まえた当院のあり方

(2) 改革の方向性

4つの視点

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

経営形態の見直し

再編・ネットワーク化

経営の効率化

(1)

(2)

【検討の進め方】

(1) 地域医療構想を踏まえた当院の役割を検討（その過程で再編・ネットワーク化、経営形態の見直しについても検討）

(2) 前回の改革プランの取組を踏まえ、経営の効率化を進める

(新公立病院改革ガイドライン)

2. 新改革プランの検討

(1) 地域医療構想を踏まえた当院のあり方

<伊賀区域の人口は減少していく傾向>

・ 2015年から2025年で14,000人減少し、その後は5年ごとに8,000～9,000人減少

・ 65～75歳人口は2020年をピークに減少

・ 75歳以上人口は2030年をピークに減少

⇒ 医療需要は減少していく

<平成26年度病床機能報告（伊賀）>

	病床数
高度急性期	0
急性期	762
回復期	50
慢性期	116
在宅医療等	-
（うち在宅患者訪問診療料算定）	-
計	928

伊賀区域の人口推計

人口推計

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月）

現時点の地域医療構想案では、伊賀区域については回復期の一層の充実が求められていると結論付けられている。

2. 新改革プランの検討

(1) 地域医療構想を踏まえた当院のあり方

＜地域医療構想（案）の方向性＞

①急性期機能の充実

- 3つの基幹病院を中心とした急性期機能の集約化、分化・連携、場合によっては統合

②回復期機能の充実

- 3つの基幹病院それぞれが一定程度の回復期機能を担う

③在宅医療や地域包括ケアシステムの体制整備

- 医療機関、歯科医療機関、薬局等の関係機関および多職種が連携していく必要がある



これらを踏まえ、回復期機能を担うことも含め、当院のあり方や役割を明確化しなければならない。

2. 新改革プランの検討

(2) 経営の効率化

新ガイドラインでは、期間内に経常収支比率が黒字となる計画の策定が求められている。

【目標】

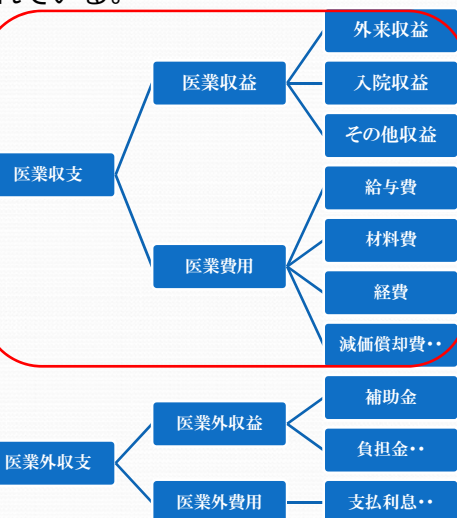
経常収支比率 100%

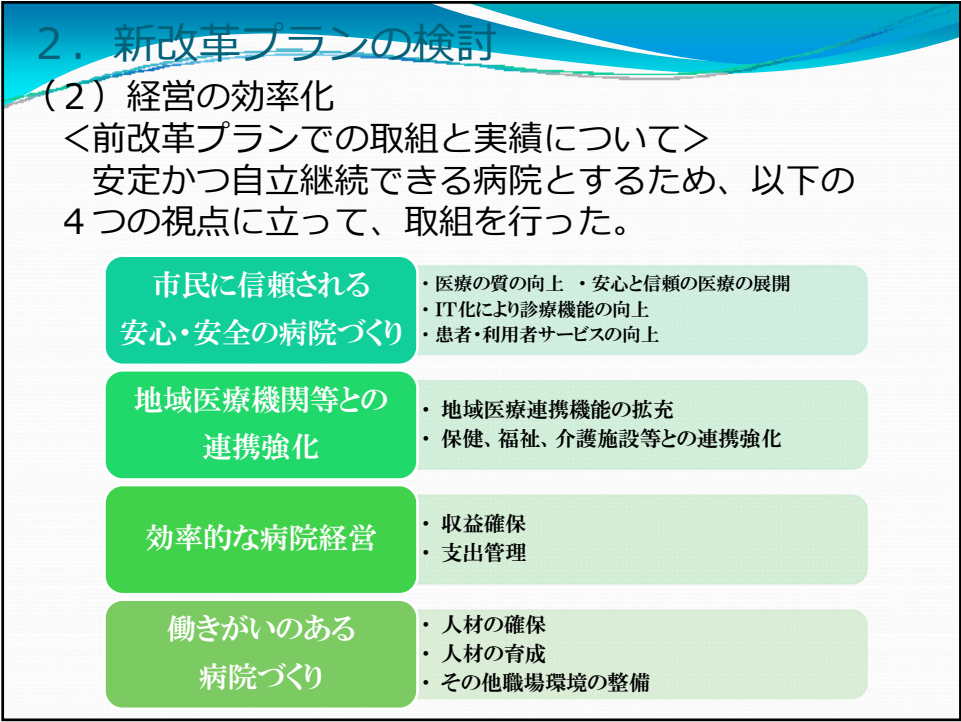
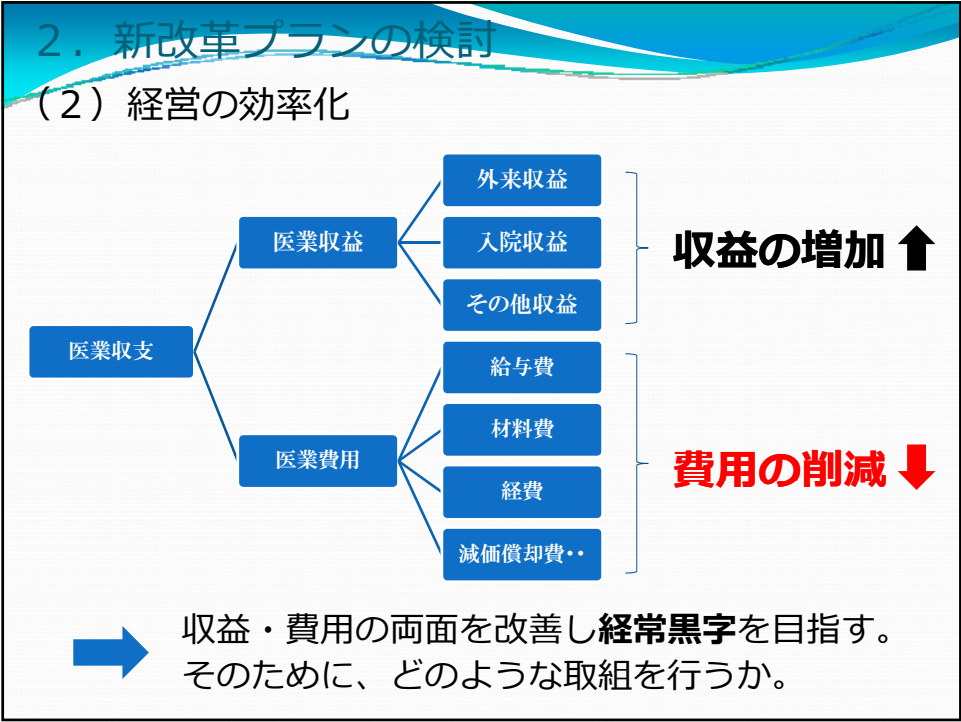
病床利用率 85%

当院の推移

年度	経常収 支比率	病床 利用率
H26	94.8	76.8
H25	97.4	76.7
H24	92.3	71.2
H23	92.3	65.6

経常収支





2. 新改革プランの検討

(2) 経営の効率化

取組事項89項目のうち、71項目に数値目標を定めた。
うち55項目が改善、全体では77%の達成率であった。

分類	取り組み事項	改革プラン実施以前(H20を基準)との比較による改善率					
		達成	未達成	その他	計	事項別	分類別
Ⅰ. 市民に信頼される安心・安全の病院づくり	Ⅰ-①医療の質の向上	8	2	0	10	80%	82%
	Ⅰ-②安心と信頼の医療の展開	3	2	1	6	60%	
	Ⅰ-③IT化により診療機能の向上	4	0	0	4	100%	
	Ⅰ-④患者・利用者サービスの向上	8	1	0	9	89%	
Ⅱ. 地域医療機関との連携強化	Ⅱ-①地域医療連携機能の充実	5	1	0	6	83%	88%
	Ⅱ-②保健、福祉、介護施設等との連携強化	2	0	0	2	100%	
Ⅲ. 効率的な病院経営	Ⅲ-①収益確保	11	7	7	25	61%	68%
	Ⅲ-②支出管理	8	2	0	10	80%	
Ⅳ. 働きがいのある病院づくり	Ⅳ-①人材の確保	5	1	4	10	83%	86%
	Ⅳ-②人材の育成	1	0	4	5	100%	
	Ⅳ-③その他職場環境の整備	0	0	2	2	-	
	計	55	16	18	89	77%	



『**効率的な病院経営**』について、さらなる改善が必要